

# だっこするよ

平成29年1月

社会福祉法人茂原高師保育園

北区立赤羽台保育園

〒115 - 0053 北区赤羽台1-4-11-105

TEL 3900-0189 FAX 3907-8690

園長 奥戸 昌子



## 生活を生活で生活に

初春のお歓びを申し上げます。2017年の始まりです。保護者の皆様や地域の皆様に支えられて195名のこどもたちと初めての新年を迎えることができました。元気なこどもたちの声が響いて嬉しいです。楽しかったお休みの様子も伝わってきます。日頃からの皆様の保育へのご理解ご協力に心より感謝申し上げます。

「生活を生活で生活に」この言葉は、日本の幼児教育の父とも言われる倉橋惣三氏の言葉です。こども自身の中に育とうとする力があることを大正時代に唱えられ、こども自身が生活に必要な経験を日常生活の中で体験して、その体験をまた自らの日常生活に活かしていくという意味が、現代社会にも通じ、保育の指針となる言葉です。白梅大学長の汐見稔幸氏からまたこの言葉の意味を学びました。

「生活」とは一人の人間として生き活きと活動することである。「生活」を「ライフ」と訳し「ライフ」には3つの意味があり、「生命」「人生」「日々の営み」である。そう理解すると倉橋氏が

言いたかったこと、本来の意味が見えてくる。こどもたち一人ひとりの生命を生き活きと活動して生活することがやがて充実したその子の人生へとつながっているんだと理解しました。

今、世界中に様々な格差は広がり、戦争は止まず少年兵やテロに志願する子ども、飢餓や病気で死んでいくこどもたちが絶たない。人間は生まれた場所で、その後の人生が違い、公平平等ではない。理不尽な面がある。しかし、誰にも平等に与えられているものそれは「生命」。その「生命」を充実させながら「日々の営み」を行っている。その営みがそれぞれの人生の物語となり、今日に至っているのである。

平等に与えられた「生命」を、どんな環境であっても、自分からどう輝かせて充実させるのか、それは「その子の義務」である。また、そのこどもの人生をどう輝かせるのが私たち「大人の義務」であると。子どもには自分で生命を充実させたい本能を持っている。どうやって充実させていくのか、それが毎日の「日々の営み」であり、「保育」である。「保育」はこどもを輝かせる「生活そのものだ。」

また、「その子が自分のもらった「生命」を生活の中で輝かせて生きる、悩む、悔しい、悲しい、嬉しいと喜んで生きる人生にしたい。誰も人間は自分の意思では、生まれては来ないが、その子の生命がこの場所で生まれてきて良かったと思えるように、生き活きと輝くことを手伝ってあげるのが保育園の役割です。」と結ばれました。私たちは、そんな仕事に携わっているんだと胸が熱くなりました。

2017年鶏年の年頭にあたり、職員一同、こどもたちの「生活力」を充実させる保育を目指します。卒園、進級を控えて大切なまとめの時期です。幼児組では、お互いの気持ちを受け止めること、みんなで一つの遊びを楽しみ、沢山の共感が生まれています。今年も愛情の輪の中で一緒に育てて参りましょう。

※写真はほしぐみ 太陽に向かって歩こうです。12月のお散歩の様子です。



あけまして

おめでとうございます。

しんねんのやくそく

「わらうかどには ふくきたる」

ことしもみんなと

たくさんあそんで、

たくさんかんがえて

たくさんこまっつて、

そして、たくさんわらって、

わくわくとどきどきのいちねんにしましょう。

